

May

5

- 2 [水] GRUPPO FRESCO #4 天使と悪魔◎PLAT アートスペース
- 4 [金・祝]—5 [土・祝] とよはしアートフェスティバル2018「大道芸 in とよはし」◎PLAT ほか
- 6 [日] 豊橋東高等学校吹奏楽部 第27回定期演奏会◎PLAT 主ホール
- 8 [火]—9 [水] ナイロン100℃『百年の秘密』◎PLAT 主ホール
- 12 [土] 国際ソロプチミスト豊橋 金澤泰子チャリティー講演会『いのち輝く』◎PLAT 主ホール
- 13 [日] ビティナ・ピアノステップ 豊橋5月地区◎PLAT アートスペース
- 19 [土] WHY Jazz 楽団 Live@豊橋 PLAT vol.5◎PLAT アートスペース
- 20 [日] 『1984』◎PLAT 主ホール
- 20 [日] 東三河ふれあい看護フォーラム2018◎PLAT アートスペース
- 22 [火]—24 [木] 豊橋演劇鑑賞会 第266回例会 劇団民藝公演『大正の肖像画』◎PLAT 主ホール
- 24 [木] 桂文我 独演会◎PLAT アートスペース
- 26 [土] 豊橋西高等学校吹奏楽部 第1回演奏会◎PLAT アートスペース
- 27 [日] 春風亭小朝 独演会◎PLAT 主ホール

June

6

- 2 [土]—3 [日] PLAT 小劇場シリーズ
FUKAIPRODUCE 羽衣『春母夏母秋母冬母』◎PLAT アートスペース
- 3 [日] 輪の会 第五回民舞のつとめ◎PLAT 主ホール
- 6 [水] 国際ソロプチミスト豊橋ポート認証25周年記念 村治佳織ギターコンサート◎PLAT 主ホール
- 7 [木] ドリコムセミナー 2018 医療・教育・福祉・健康系進学ガイダンス◎PLAT アートスペース
- 9 [土] ドリールの会豊橋 第19回発表会◎PLAT アートスペース
- 9 [土]—10 [日] バルコプロデュース『ハングマン』◎PLAT 主ホール
- 10 [日] 桂春蝶 落語独演会◎PLAT アートスペース
- 16 [土] 2018 遠州三河放射線治療講演会<<医療従事者向け>>◎PLAT アートスペース
- 17 [日] YM パレエ 第7回発表会◎PLAT 主ホール
- 21 [木] プラットワンコインコンサート trio FlaP『Afternoon Concert ~初夏の訪れ~』◎PLAT アートスペース
- 23 [土] 桂三四郎 独演会◎PLAT アートスペース
- 24 [日] 豊橋おやこ劇場 低・高学年例会 音楽劇『イソップランドの動物たち』◎PLAT 主ホール
- 24 [日] 第36回アコーディオンコンサート◎PLAT アートスペース
- 24 [日] 森谷真理 ソプラノリサイタル◎PLAT アートスペース
- 29 [金]—7/1 [日] 『マクガワン・トリロジー』◎PLAT 主ホール
- 30 [土] 山崎ハコ with 安田裕美 豊橋ライブ vol.4◎PLAT アートスペース

表紙/「大道芸 in とよはし」 Julot
企画・発行/公益財団法人豊橋文化振興財団
編集・デザイン/味岡伸太郎+有限公司STAFF
平成30年4月発行 31号[隔月発行]



公益財団法人
豊橋文化振興財団情報誌
2018年5月-6月

vol. 31



TOYOHASHI
ARTS
THEATRE
PLAT

CONTENTS

表紙 「大道芸 in とよはし」

2

INTERVIEW:1

「大道芸 in とよはし」

今年の豊橋にハズレはない。

橋本隆雄

6

INTERVIEW:2

「1984」

観てもらって一緒に考えたい。

井上芳雄

8

INTERVIEW:3

「春母夏母秋母冬母」

糸井君の世界がなかったら、

生きていてもつままない。

深井順子

10

TOPICS

「ジャズ・ナイト・イン・パリ」

接する者の心を

ノックする人間臭さや、

音楽をする喜びが

伝わってくる。

12

INFORMATION

PLAT主催公演情報

14

LOITER

パリの寄り道ぶらぶら 桑原裕子

「旅の仲間になってください」

15

SUPPORT/TICKET CENTER

16

PLAT CALENDAR



その時代を見据えて時代に合った表現をしていかざるを得ない。大道芸というのはお客と同時に呼吸して、同時に進行する。その時代のいろんなタイム感覚とか、スピードとか、いわゆる流行とかを取り入れて、そして自分の持ちネタを活かしていくもの。そしてこれが型を変えて、その時代のニーズに合った、人を楽しませるような芸能になっていく。そこに変わっていく過程でやはり原点は大道芸なのだよ。その時代時代で小屋に取り上げられ、例えばニューヨークで「面白いからブロードウェイに出しちゃおう」という芸人も4千人に一人くらいはいる。

——大道芸と舞台の違いというのは、どんなようなものとお考えでしょうか。

橋本——芸能者は常にこういうふうに客と接してきた。劇場という、ありがたいものができたのはずっと後ですから、いつも、客のことを考えないわけにはいかない。ところが劇場というのは客のことは考えない。自分で勝手に演出して、来たくないやつは来なくていいというのです。だけど、大道芸というのは誰にでも、観てもらわなければならないから、やはり考えないわけにはいかない。劇場では役者から客席が見えない。どんな顔をして観ているか、誰が寝ている、誰が起きているかわからない。大道芸は全部見えている。お互いがやり取りしながら、やるわけです。気に入ったら、すぐにお金で返ってくる。こういう連鎖が、芸能の末端で、なおかつ最前線、人との接点としての役割をずっと果たしてきている。

——大道芸は一瞬で観客を虜にしてしまう。それはどのように身に付けていくものなのですか。

橋本——説経節師たちが全国を歩いた当時、村では生活で面白いことなんか何もないから、芸能が来ると、村は大歓迎なのだよね。そして辻とか、大きい農家の大広間とか土間で演じていた。その場はごちそうも出し、みんなも喜んで、話もする。でも、本来は村八分みたいなところに住まされている河原乞食とも言われる差別民だから、翌朝は裏口からコソコソと帰っていく。こういう芸能の一つの在り方は、切実な生きるための出来事なのです。たとしたら好かれたいものは作れない。誰も観てくれない放浪の芸能者というのは、生きていくことができない、それは今でも同じ。この客にはこういう手口で、こういう話で惹きつけて、これを見せようという戦略は、常にその場所を変えなければだめ。若い芸人というのは人に気を配らないで、自分の決めた音楽がそのとおりに鳴って、失敗しないでできるかだけに気を配っているから。そんなものメシの足しにはならない。

——ストリートアーティストアカデミーのことをお聞かせいただけますか。

橋本——われわれは保証のない、安全安心の正反対の生活を選んだ。大道芸人になるということは、もはや他の人生をやらないということ。雇ってくれるやつなんかもういない。これが40になったらもう絶望じゃないですか。だから40から魅力的な大道芸人になって、生き延びる手口は何かというのが、アカデミーを始めるきっかけです。大道芸人を育て、人としてのレベルを上げて

とよはしアートフェスティバル 2018

「大道芸 in とよはし」

5月4日[金・祝]・5日[土・祝]

会場=PLAT、豊橋駅南口駅前広場、広小路通り、ココラアベニュー、こども未来館ここにこ、豊橋公園

いつもの街がまるごと劇場になる二日間 笑いと涙、超絶びっくり、大道芸のすべてがここにある。 今年の豊橋にハズレはない。

プロデューサー
橋本隆雄

——大道芸とは実ほどのような芸なのかという、そのもの部分からお教えいただけますか。

橋本——日本でも、平安時代の末期には説経節とか、傀儡、猿飼という大道芸が全国をまわっていた。説経節というのは物語の語り衆ですね。それから傀儡というのは人形使い。猿飼とは動物を使った芸。例えば説経節は、安倍清明という高名な陰陽師の裏物語「葛の葉」をしゃべって日本中を歩いている。それは和歌山県の聖神社に安倍清明の父親が住んでいた。そこに狐も住み、いい女に化ける。それで父親とできちゃう。そうして生まれた子どもが安倍清明だという物語。

鎌倉時代、平家が破れ、平家物語を歌う琵琶法師が出てくる。説経節の影響で、やはり旅をしている。傀儡というのは人形遣いです。今でも地方に残る人形芝居の原型です。正月とか、いろんなところに首だけの人形を持っていった。それが説経節と合体して筋書きがだんだんつき、物語を演じるようになる。呼ばれているわけでもないし、門付けと似たようなもの。身分的には被差別民ですから、大変な思いをして底辺の人々が伝えながら、一つの芸能としてずっと続いている。

歌舞伎は一遍上人の念仏踊からきている。鎌倉時代の末期になると、一遍の念仏宗は人をいっぱい連れて裸になって踊り狂う宗教で、これも見世物になる。最初は鎌倉の由比ヶ浜で踊っていたが、河原者の原型になった。それが安土桃山時代末期になると、歌舞伎念仏になる。阿国歌舞伎は念仏踊ですから、阿国歌舞伎

念仏踊となって大道芸人じみている。平清盛は毎晩鴨川の河原で遊び女たちの歌を習っていた。これは河原というのが芸能の発表の場所だったという証拠で、「梁塵秘抄」という本に残っている。

というふうに、生活のために芸能を使った人々が底辺にたくさんいたことにおいて、全然世界とは変わりません。室町時代には田楽踊り、田楽と説経節の物語が合体し、能楽になる。そういうふうに、大道芸というものが寄り集まって、別のものを生み出している。常に大道芸という芸能は、その時代に適応した見せ方になってないと、客が喜ばない。これは今でもそうで、大道芸は時代性が一番重要視される。われわれが一番忘れてはならない原点は、千年前の門付けなのです。

アメリカでは、やはりジャグラーが多い。ジャグリングはヨーロッパでは放浪の曲芸師の表芸だった。それらの一部がアメリカに渡った。紀元一世紀にはヨーロッパや中近東にジョングレールという放浪音楽家があった。トルバドールというのは吟遊詩人、それも代表的な大道芸。美しい詩を美しい音楽にのせて歌った。人気がありましたが、宗教会議で信仰の邪魔になると、差別民に落とされる。

日本でも、例えば田楽は農業とも密接に関係して、お囃子で田植え踊りとか田植え歌で田植えをした。これは田植えのときだけ珍重され、終わるとまた穢多非人になってしまう。この田楽能が世阿弥によって、能になっていく。常に芸能というのは原点のところから常に

「1984」

5月20日[日]13:00開演
原作=ジョージ・オーウェル
脚本=ロバート・アイク、ダンカン・マクミラン
翻訳=平川大作
演出=小川絵梨子
出演=井上芳雄、とまさかりえほか
会場=PLAT主ホール

たい。僕たちの評価は、評で褒められるとか、賞をもらうとかもあると思うのですが、一番は演出家に「また井上くん」と言ってもらおうと、それくらい役者って不安なんですよ。どんなに仲良くしゃべって、飲んでいても「この人俺のこと嫌いだろうな」と毎回思うんです。だから呼んでもらったときに初めて「あー、嫌いじゃなかったんだ。もっと早く言ってよ」と。

中島——そういうことを気にしているようには全然見えませんよ。そして、全然人を緊張させないというか。スッと自然体でそこに立つという、何よりも俳優としての佇まいが素敵ですね。

豊橋が最終公演になる『1984』。最後に豊橋のお客さんに一言お願いできますか。

井上——考えれば考えるほど、時間を使えば使うほど理解が深まっていく作品です。その最終の段階を、考える最高の状態で観ていただけるので、楽しみにしていただけられたと思います。日本は演劇が盛んですが、どうしても東京に集中して、日常で舞台を観ることは難しい町が多いと思う、そこに公共の劇場や舞台ができ、呼んでくださるのはとてもありがたいですし。何を初めて観るかは重要だと思うから、その分責任も重大だなと思います。

普段舞台を観ない方が、観たものが面白いか、感動していただけないと、次にまた劇場に足を運ぼうとしていただけないと思うんです。そういう舞台にしよういつも思っています。最近、体験ということをよく考えます。本当は一人一人がその状況を実体験するのが一番強い。でもなかなか実体験するのは難しい。じゃあ次にできることは、その世界を舞台上で生身の人間が表現しているものを観ること。その次が映画で観るとか、本を読むとかになるかもしれませんが、演劇というのは経験、体験することが一番近い表現形態だと思うので。だから一緒に体験して、考えてほしい。考えて損はないというか、今考えないと、間に合わないかもしれない、大切なテーマがあると思うので、僕たちも皆さんが何を感じてくださるか楽しみに、豊橋に伺いたいなと思います。

中島——今日はとてもいいお話を伺わせていただきました、ありがとうございます。

絶対的監視社会に、たった一人の男が挑む
世界を震撼させた話題作がついに舞台化。

観てもらって一緒に考えたい。
出演 井上芳雄

聞き手 中島晴美 穂の国とよはし芸術劇場PLAT ミニアプローチサー

中島——その状況を与えられた時に、ご自身の中から何かがふつふつと出てくるものがあるのでしょうか。

井上——この作品を読んでいると、実は今すでに世の中はこうなっているんじゃないかと思うんです。人が突然消えたりすることだってある。忽然といなくなっちゃったとか、なんで最近会わないのだろうということはたくさんあるんですよね。それさえ気づかないなんていう、無関心は怖いし、もっと怖いのは誰が悪くて、誰が正しいのかも突き詰るとわからない。人は慣れてしまうから。拷問している人がほんとに間違っているのか、されている方が正しいのか。耐えるのが正義なのか、転んでしまうのは悪なのか。その答えはまったく出ない。この作品ではあずかに希望が提示されると思うんです。僕たちにできるのは多分考えることだけですが、考えないことが一番怖い。そのためにこの作品をお客様に観ていただいて、一緒に考えるしかないなと思っています。

中島——もう本読みが終わりの頃でしょうか。セリフ覚えはいい方ですか。

井上——と思います。あんまり苦労したことはないですね。ただ、前日にならないと、全然覚える気にならないです。あまり前もって台本を読むと、ドキドキしちゃうんです。これどうやって表現したらいいんだろう、このセリフどういう言い方したらいいんだろうということばかり考えてしまって。だから、ギリギリまで読みたくないです。

ただ、常にそういうスタンスだというよりは、演出家のやり方に合わせたいと思っています。例えば蜷川さんは用意してきたものを見せてほしいという人だから、そのときは場を考えたり、一緒にやっている人と話し合ったりします。でも、それが嫌いな演出家もあるし、全部教えてくれる演出家もある。僕たちは、演出家がやりたいことを具現化する一員なので、今回の演出家はどういう人でどういことをやりたいのかなというのを大事にしています。

中島——いただいたセリフ、お仕事を、障害物と思わずに楽しんで軽々と超えてらっしゃるんですね。

井上——軽々ではないですが、与えられた責任を果たしたいというか、演出家にとって、使いやすい、やりやすい俳優でい

中島——ミュージカルからのデビューですが、最初からそういう希望だったのですか。

井上——そうですね。小学4年生のときに福岡に初めて来た劇団四季の『キャッツ』を観て感動して、ミュージカルをやりたいと思って、そのままずっとレッスンをしていました。劇団四季に入るために上京して、東京藝術大学に入学したんですけど、在学中に東宝の『エリザベート』のオーディションに受かったんです。もう嬉しいのと、自分がどれくらいプロの世界でやれるのかなという興味がありました。ピギナーズラックではないけど、自分のキャラクターと役が合っていたみたいで、すごく褒められたのですが、いろんな他の役をやらせていただくうちに、どうも演技力がないことがだんだんわかってきて。演出家からダメ出しを受けたけど、どうやったらいいかがあまりにもわからない。蜷川幸雄さんの『ハムレット』をやらせていただいたり、井上ひさしさんの作品は音楽劇で好きだったので、出たいと言いにいたりして、慣れるというか、場数を踏ませてもらって、前よりはわかるようになりましたが、どうやればいいというのは未だにわからない。お芝居には向いてないと思うことも多々ありますね。でも、向いているからやるとか、上手いからやるということではないと思うんです。自分には何か表現したい欲求があるし、この人とやりたいという思いもたくさんある。だから一生懸命という感じです。

中島——最初に「1984」を読まれたとき、どうでしたか。
井上——こんなひどい話があるんだと思いました。僕は昔からほんとに歌って踊りたいだけで、世の中への怒りみたいなものはなかったし、世代的にもそこそこ幸々に育ってきたので、社会への怒りとか、気持ちを表現に向けるという原動力が特にないんです。でも、例えば小林多喜二の生涯を知ったときに、こんなことがあったんだって、その歴史を知り、今の状況の仕組みを知ると、おかしなことがこの世にはたくさんあるんだということがわかる。役者としていろんな作品をやることで、自分の中にも元々あったものが出てくる気がします。そういう意味ではこの作品、この役もハードですが、自分にとってもやる意味は大きいと思いますね。

井上芳雄 [いのうえ・よしお]
／東京藝術大学音楽学部声楽家で在学中の2000年に、ミュージカル『エリザベート』のルドルフ役で鮮烈なデビューを飾る。以降、その高い歌唱力と圧倒的な存在感で数々のミュージカルや舞台に出演。近年ではテレビ・映画等にも活動の幅を広げている。第33回菊田一夫演劇賞、第63回芸術選奨文部科学大臣新人賞(演劇部門)など受賞多数。新国立劇場では『負傷者16人-SIXTEEN WOUNDED-』ミュージカル『PASSION』に出演。

INTERVIEW:2

PLAT 小劇場シリーズ FUKAIPRODUCE羽衣

「春母夏母秋母冬母」

6月2日[土]・3日[日]14:30開演

プロデュース＝深井順子

作・演出・音楽＝糸井幸之介

出演＝深井順子、森下 亮

会場＝PLATアートスペース

座付作家の糸井幸之介による、深井順子の40歳を記念する新作二人芝居
糸井君の世界がなかったら、
生きていてもつまんない。
深井順子
 聞き手 中島晴美 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT ミニョンライター 出演

中島——深井さんは劇団の主宰もして、しかしリーダーとも違う感じで、俳優としても出て、何か不思議な役どころですね。

深井——そうなんです。元々、糸井君主宰で、日本大学芸術学部の演劇学科で劇団劇団というのを組んだんです。でも、糸井君に劇団主宰は向いてなくて解散。でも、やはり糸井君の才能がすごいから、私が主宰でやるから糸井君は好きに書いてやっていきなよと、私がプロデュースで、糸井君が演出で、FUKAIPRODUCE羽衣を作った。役者は客演で呼んでいたのですが、いつも同じ11名だから、「もう劇団に」となったのです。

中島——普段、深井さんはメインの役どころですか。

深井——うちの劇団は、2時間の内15分の主役とかで、みんな同じくらい出るのです。ストーリーテラーは、あんまりないです。

中島——ということは、結構、個性的な役者さんが揃ったのですね。

深井——そうですね。元々、私の好きな人を呼んでいるので、基本、ちょっと変わり者。あんまりいないタイプの役者。それを唐組の役者という感じ。何て言うのだろう、ちょっと片隅の人、というイメージですね。

中島——深井さん自身の女優としてのキャラクターはどんな感じですか。

深井——この間、糸井君に一人芝居書いてもらったのです。『橙色の中古車』という、離婚したアラフォーの女性が、アルゼンチンで中古車が当たって、その車に乗って、どんどん南下し、最後、車を海に捨てて帰るとい話だった。そういう悲しい切ない話が多いかもしれない。

中島——『とよはしの街の物語』では、糸井さんはどのようにして、言葉を繋いでいるのですか。

深井——あてがきだと思います。うちの劇団でも、だいたいあてがきです。おばあさん役をやる方が面白いなと思ったから、この曲を書いたのだろうなという方がいるのです。醸し出す雰囲気とか、声質とかもありますし。その人を知って、豊橋の街の空気を感じて書いているのだと思う。

中島——豊橋は居心地よくいられる環境ですか。

深井——豊橋の人たちって、めっちゃしゃべりやすいで

すよね。優しいし、暖かいし、気持ちがちやんとあるというか。自由にやれば、やるほど喜んでくれるから、テンションが上がり、急に、これこうしたいと言うと、ポカンとなるのかなと思いきや、だんだんわかってきたみたいで、みんなもテンションが上がって、楽しいな。幸せです。

中島——深井さんは、猫の着ぐるみを着っぱなしでしたね。

深井——そうです。「ジャンプ」という役ですが、糸井君は、サディスティックというか、私にきつい役どころを振るのです。暑いとか言っても、舞台上にいなさいよと無視。

中島——岸田國土劇曲賞にノミネートされた『瞬間光年』の時は、どうだったのですか。

深井——大変でした。徳川家康をやったのですが、モノログなので、長ゼリフなのです。それが、本番の1週間前に出来た。それから「覚えろ」「ありえない」と恨みましました。アゴラ劇場での初日に台詞が出て来なくて、「うわー」とか言いながら。

中島——他の役は、徳川家康と関係ないのですか。

深井——全然。ロボットのバブちゃんとか、女性のスマーと、あと、窓を開ける男と、宇宙飛行士とか、地底人、もう全然バラバラ。それぞれが出てきて、長ゼリフをしゃべる。

中島——踊りと歌と台詞、やっていて楽しいと思うのはどれですか。

深井——歌ですね。糸井君が作る歌詞が、ほんとにいいんです。彼の歌詞が歌いたいために、やっている。現代に生きる最大の詩人だと思うのです。どのインタビューでもずっと言い続けている。野田秀樹さんにも、その片思い感は、なんか健気な感じでいいから、出して言って言われました。

中島——今度の二人芝居の『春母夏母秋母冬母』。これ、滑舌の練習みたいですね。

深井——私も一気と言えなかった。最初、糸井君「無題」にするか迷っていた。糸井君に、どうやって読むのと聞いたら、「まあ、春はは夏はは、じゃない?」とか言って、ふわっとしている。

——昨年、私の母ががんになり、初期で治り、半年に



一回検診すればいいと言っていたのが、急に、「肺に水がたまっちゃった」と入院して、2週間で亡くなったんですよ。いまだに夢にも出てきます。喪失感がすごすぎて、私にとっても、糸井君にとっても、メンバーにとっても、大きい人だったから、糸井君が「母」をモチーフにしたのではと。あと「木ノ下歌舞伎」主宰の木ノ下裕一さんが、お母さんの歌詞になった時に、何か違う表現をするから、今の深井さんにそういうテーマがあつたらいいのでは、と、言ってみたくです。

中島——春夏秋冬だから、母の日常ということなのでしょうね。誰とやるのですか。

深井——クロムモリブデンの森下亮さんという男の人です。うちの劇団が好きで、観に来てくれていて、2回くらい出ている。その方も40歳で、40歳になったら記念公演をやりよと、何年も前から私が言っていたの。

中島——作品としては、出来上がっているのですか。

深井——まだ全然。一行も書いてない。ほんと、今度の二人芝居がどうなるのか。10何役かきそうな気がして怖い。

中島——こんなテーマでいききたいという話はしないのですか。

深井——私からは、そういうこと言えない。私が、お母さんのことを書いてほしいと言ったら、糸井君絶対書かない。

——糸井君が書くことが、私が言いたいことだから、糸井君がやりたいものを、私がやりたい。糸井君の世界がなかったら、もう生きていてもつまんない。

中島——相棒に恵まれているのは、すごいことですね。

深井——あと、自分が歳を重ねていくことの素晴らしさを、糸井君は、お芝居で書いてくれる。これから先、歳を重ねた時に、どういう役を書いてくれるのだろうかというのも、楽しみです。『とよはしの街の物語』で、おばあさん役を書いた時に、「いいなあ、この年代の人が、こんなにいい曲をもらって、歌えるのって、羨ましいな」と思った。

だから、これから、ほんとに健康で、元気で、二人で一緒に歳を重ねてやっていきたいなと思います。

中島——深井さんが、ゾッコンまいる、糸井ワールドに、引き込まれてみたいと思っております。

深井——はい、ぜひぜひ。



「瞬間光年」
撮影:金子愛帆



「とよはしの街の物語」
撮影:伊藤華織

深井順子[ふかい・じゅんこ]
 /俳優・FUKAIPRODUCE
 羽衣主宰。1977年東京生まれ。96年から99年まで劇団唐組に在籍。2004年に、糸井幸之介の生み出す唯一無二の“妙-ジカル”を上演するための団体、FUKAIPRODUCE羽衣を設立。妖艶かつ混沌とした詩的作品世界、韻を踏んだ歌詩と耳に残るメロディで高い評価を得るオリジナル楽曲、圧倒的熱量を持って放射される演者のパフォーマンスが特徴。設立以降、全公演に出演、及びプロデュースを行う。08年に世田谷区芸術アワード“飛翔”を受賞。12年『耳のトンネル』にてCoRich舞台芸術まつり2012春グランプリを受賞。同年、『浴槽船』にて、クォータースターコンテスト(演劇ぶっく・エントレ共同主催の演劇動画コンテスト)グランプリ受賞。演劇公演のみならず09年からLIVE活動を開始。また近年は、中高生向けのワークショップの講師や、野田地区『エッグ』『MIWA』に出演するなど、活動の範囲を広げている。14年より多摩美術大学にて非常勤講師を務める。

ジプシー。インドに起源を置く、ヨーロッパ流浪の民の名称である。ロマとも呼ばれ、スペインではヒターノと言われる。また、フランスやベルギーではマヌーシュと呼称される。居住するのがかつての馬車からトレーラーや家に変わるなど時代とともに変化はしてきているが、欧州の表の価値観に帰属することを良しとしない、もう一つの自由の物差しを抱えた人々は、今もしっかりと各所にいる。

ところで、話は突然変わるが、キャラクターが立ったミュージシャンは?そうした問いから、原稿は進めたい。

と、いろいろな個性の担い手がいるし、聞き手によって様々な音楽家の名前が思い浮かぶに違いない。たとえば、ロック・ファンだったらミック・ジャガーという人もいるだろうし、R&Bの愛好者であつたらジェイムズ・ブラウンの顔を思い浮かべる人は少なくないだろう。

として、チャボロ・シュミットも、そんなビッグ・ネームのキャラ立ちのスターたちと肩を並べる、得難い存在感を放つ人物だ。当然、彼のことを知らない方も、その人懐くも人間的な働きかけを持つ当人を前にすると、“コノ人ハ一体何者ダロウ?”と思わずにはいられないはずだ。

彼がニヤリと笑ったり、太い眉をちょいと動かしただけでも、そこにはストーリーが生まれ、接する者に何かを与える。その正の所作は、もう千両役者といった趣。そして、実際のパフォーマンスに触れたなら、彼に対する興味はまさに倍加するはずだ。

そうした彼の音楽の才能込みのイケてる佇まいを最

接する者の心をノックする人間臭さや、音楽をする喜びが伝わってくる。

佐藤英輔

音楽評論家

7月8日[日]16:00開演

出演=チャボロ・シュミット(ギター)、マヨ・ユベール(リズム・ギター)、クロディウス・デュボン(ベース)、マリー・クリスティーヌ・ブランビーリャ(ヴォーカル)
ゲスト=高橋 誠(ヴァイオリン)
会場=PLAT主ホール

チャボロ・シュミット・トリオ

「ジャズ・ナイト・イン・パリ」

大級に認めたのが、映画『愛より強い旅』が2004年発表のカンヌ音楽祭で監督賞を受賞するなどしている映画監督のトニー・ガトリフ。自らもフランスとマヌーシュのミックスであるガトリフはジプシーを扱う映画も複数撮っており、彼はチャボロを1992年作『ラッチョ・ドローム』にまず登場させた。同映画はインドから欧州一円へと散ったジプシーの動きを活力ある音楽や踊りとともに描いた映画だが、チャボロはそのフランスの場面を出てくる。

また、ガトリフ監督は数作を挟み、その10年後に作った映画『僕のスウィング』にも、チャボロを主役として出演させた。夏休みをマヌーシュのコミュニティがあるストラズブルの叔母の家で過ごした少年とマヌーシュの少女の淡い恋を綴った映画だが、とちらでチャボロは少年にギター=マヌーシュ文化を教える役を見事にこなしている。

と、二次的なことから話を始めてしまったが、そんなチャボロは名実ともに、現在の仏マヌーシュ・ジャズのギター奏者を代表する存在である。1954年にパリで生まれた彼は、6歳からギターを始めた。マヌーシュの団欒において音楽はまさに真横にあり、父親はヴァイオリン、母親はギターを演奏。彼がギターを手にするのも、まったく自然の成り行きだった。1970年代後期からプロのギタリストとしての活動をはじめ、ストラズブルを拠点に気ままに活動を維持。彼が奏でる音楽も全面的に使われた映画『僕のスウィング』公開以後は日本でも

チャボロ・シュミット/1954年パリ生。現在もギター音楽に多大な影響を与え続けるジプシーの音楽家、ジャンゴ・ラインハルト(1910-53)の遺志を継ぐ、現在のジプシー・スウィングの最高峰ギタリスト。03年に映画『僕のスウィング』で主役のジプシー・ギタリストとして出演して注目を浴び、同年初来日。ダンディズム溢れる超絶ギター演奏を披露し、日本でも人気を得た。今年4月に新作アルバム『夜のメランコリー』を日本リリース、2018年7月に10年ぶりの来日公演を行う。



TOPICS

知られる存在となり、2003年から2008年にかけて数度来日もしている。

ところで、我が道を行く感覚に溢れるチャボロにとって最大の思慕の対象となるのがジャンゴ・ラインハルト(1910~1953年)だ。マヌーシュならではのペーソスとジャズの即興性をマジカルに交錯させたジャンゴの演奏は独自の味わいや発展性を抱えており、1930年代に話題を呼ぶようになった。そして、その個性溢れるギター演奏はデューク・エリントン筆頭とするジャズの本場たる米国のミュージシャンたちからも強い注視を受けることになる。もちろん、米国ジャズ界で認められた最初の欧州人であり、まさにワン・アンド・オンリーな音楽偉人としてジャンゴは広く認知を受け続けている。

当然の事ながら、マヌーシュとしての自由奔放さを糧に世界的な音楽家となったジャンゴはマヌーシュにとってはまさに輝けるヒーローであり、先に触れた映画『僕のスウィング』はそのトレーラーの中に彼の写真が麗々しく飾られている事実も伝えていた。チャボロがプロ活動当初にホット・クラブ・ダ・シティと名乗ったのも、クインテット・ドゥ・ホット・クラブ・ド・フランス(フランス・ホット・クラブ五重奏団)というジャンゴの伸長期のバンドの名前を受けたものだろう。

……現マヌーシュ・ギターの第一人者であり、ジャンゴのギター表現の最良の継承者。そこはかたない哀愁や湧き上がるパッションなど、チャボロが受け継いだ

ジャンゴ性は多大。だが、それに止まらず、なんとも接する者の心をノックする人間臭さや、音楽をする喜びが無防備と言いたくなるほど伝わってくるのはチャボロならではの美点と言うしかない。

チャボロの新作『夜のメランコリー』は彼のオリジナル曲を中心に収めた1作。それを聞くと、ここにきて彼の演奏がまた新たな広がりを見せているのに驚かされる。ずっとヴァイオリン奏者をグループに入れていた彼が、今作ではサイド・ギター奏者とコントラバス奏者の3人で表現にあたっており、その行き方はチャボロのギター演奏がより直接的に聞き手に飛び込んでくることを導く。また、俺様感覚横溢のソロ・ギター演奏曲も同作には入れられているし、一方では渋い歌声の女性歌手を起用しもう一つのディープな歌心を求めんとする曲があるのも新機軸。60代半ばにさしかかろうとする今、チャボロはまた前を見て動いている!

10年ぶりとなる今回の彼の来日公演は、その『夜のメランコリー』に参加していたミュージシャンたちを伴って持たれる。ゆえに、マヌーシュの音楽文化を体現する人物の“現在”があますことなく開かれるものに今公演はなるに違いない。そして、それは長年欧州の常識や縛りから逃れ、思うままに呼吸をしてきたマヌーシュの素敵を示唆するものになるだろう。チャボロ・シュミットたちの演奏に触れたなら、受け手は自分が見ることができる視野がちよっと広がった感覚を得るのではないか。

佐藤英輔[さとう・えいすけ]/3年の出版社勤務を経て、独立。フリーランス歴は、30年を超える。ロック、ソウル、ジャズ、ワールド・ミュージックを俯瞰するスタンスのもと、毎日新聞や日本経済新聞のほか、色々な雑誌の原稿、CDのライナーノーツなどを広く執筆。
ブログ<http://43142.diarynote.jp>

ゲスト=高橋 誠
(ヴァイオリン)



高橋誠[たかはし・せい]/愛知県立芸術大学音楽部器楽科卒。変幻自在、独自のバンドスタイルと高い音楽性で注目され、各地のフェスティバルなどを中心に活躍している。ジャズ、ジプシー音楽を中心に、タンゴ、フラメンコ、ポピュラー音楽など様々な音楽を幅広く取り入れ、ジャンルにとらわれないスタイルを持ち味としてる。

INFORMATION

PLAT主催公演情報



「春風亭小朝 独演会」 尾上菊之助 「松竹大歌舞伎」 松坂桃李

4/30 [月・休] 14:00開演
プラット2018年度プログラム説明会
2018年度、PLATがお贈りする主催・共催プログラムをご紹介いたします。●出演＝平田満(アソシエイトアーティスト)、桑原裕子(芸術文化アドバイザー)ほか●会場＝PLATアールスペース●料金＝無料(要整理券)※整理券はプラットチケットセンターで配布中

5/4 [金・祝]・5/5 [土・祝]
とよはしアートフェスティバル2018
大道芸inとよはし
●会場＝PLAT、豊橋駅南口駅前広場、広小路通りほか●料金＝無料

5/8 [火] 18:00開演・**9 [水]** 13:00開演
ナイロン100℃ 45thSESSION
「百年の秘密」 **好評発売中**
ナイロン100℃がプラット初登場。劇団結成25周年を記念して、演出家自らがどうしても再演したかったという注目作を6年ぶりに上演します。●作・演出＝ケラリーノ・サンドロヴィッチ●出演＝犬山イヌコ、峯村リエ、萩原聖人、山西ほほほか●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]S席5,000円、A席4,000円、B席3,000円ほか

5/20 [日] 13:00開演
「1984」
●原作＝ジョージ・オーウェル●脚本＝ロバート・アイク、ダンカン・マクミラン●翻訳＝平川大作●演出＝小川絵梨子●出演＝井上芳雄、ともしかりえほか●会場＝PLAT主ホール●前売予定枚数終了:当日券については5月以降にお問合せ下さい。

5/27 [日] 13:30開演
「春風亭小朝 独演会」 **好評発売中**
ドラマ出演や音楽界とのコラボ、プロデュースなど幅広い分野でその才気を発揮している小朝師匠が今年もプラットに登場!●出演＝春風亭小朝●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]一般3,500円、ユース(24歳以下)2,500円

6/2 [土]・3 [日] 14:30開演
PLAT小劇場シリーズ
FUKAIPRODUCE羽衣
「春母夏母秋母冬母」 **好評発売中**
●プロデュース＝深井順子●作・演出・音楽＝糸井幸之介●出演＝深井順子、森下亮●会場＝PLATアールスペース●料金＝[全席自由・日時指定・整理番号付]一般3,000円ほか

6/9 [土]・10 [日] 13:00開演
「ハンクマン」 **好評発売中**
2015年ロンドンでの初演よりたちまち評判となった超話題作が日本初上陸!悪意と不器用な愛情、真つ黒なユーモアに満ちた息つく間もないスリリングな舞台に期待ください。●作＝マーティン・マクドナー●翻訳＝小川絵梨子●演出＝長塚圭史●出演＝田中哲司、秋山菜津子、大東駿介、宮崎吐夢、大森博史、長塚圭史、三上市朗、羽場裕一ほか●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]一般9,000円ほか

託児サービス対象公演
要予約。生後6ヶ月以上。
お一人様¥500。お申込み、お問合せはプラットチケットセンターまで

マイセレクト4 対象公演
マイセレクト **4**



二兎社公演42「ザ・空気ver.2 誰も書いてはならぬ」 伊藤博史 伊藤郁女

6/29 [金] 19:00開演・**30 [土]** 16:00開演
7/1 [日] 13:00開演
「マクガワン・トリロジー」 **7月1日のみ**
松坂桃李ら豪華キャスト陣と新国立劇場演劇部門次期芸術監督の小川絵梨子演出によりお届けする意欲作。IRAの殺人マシーンとなったゴールウェイ出身のヴィクター・マクワガンの三年の歳月を描いたコメディータッチの悲劇にご期待ください。●作＝シーマス・スキャンロン●翻訳＝浦辺千鶴●演出＝小川絵梨子●出演＝松坂桃李・浜中文一、趣里・小柳心、谷田歩／高橋恵子●会場＝PLAT主ホール●前売予定枚数終了:当日券については6月以降にお問合せ下さい。

7/8 [日] 16:00開演
チャボロ・シュミット・トリオ
「ジャズ・ナイト・イン・パリ」
●会員先行・セット券＝3月31日(土)●一般発売＝4月21日(土)●出演＝チャボロ・シュミットほか●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]一般4,000円、ユース(24歳以下)2,000円※ケルティック・クリスマス・コンサート(12/9主ホール)とのお得な2公演セット券(一般)8,000円

7/15 [日] 12:00開演／16:30開演
平成三十年度(公社)全国公立文化施設協会主催 東コース
「松竹大歌舞伎」 **12:00のみ**
尾上菊之助の『御所五郎蔵』『高坏』ほか。当日はプラット茶屋の開店や特製弁当の販売など、劇場が丸一日歌舞伎小屋に変身!●会員先行＝4月7日(土)●一般発売＝4月22日(日)●出演＝尾上菊之助ほか●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]S席10,000円、A席7,000円、B席5,000円ほか※発売日初日は、お一人様一申込につき1公演4枚までの枚数制限有り。

7/22 [日] 12:00開演／17:00開演
7/23 [月] 13:00開演
ミュージカル・コメディ「キス・ミー・ケイト」 **23日のみ**
松平健が再びプラットに登場!豪華な出演者がお贈りする、歌にダンス、笑いも満載!ハッピーエンドでお楽しみいただけるミュージカル。シェイクスピアの喜劇「ジャジャ馬ならし」を劇中劇に仕立て、舞台裏と交互に見せる「バック・ステージ・ミュージカル」の傑作です。●会員先行＝4月21日(土)●一般発売＝5月12日(土)●作詞・作曲＝コール・ポーター●脚本＝ベラ&サミュエル・スピワック●訳詞＝なかにし礼●翻訳＝丹野都弓●演出・振付＝上島雪夫●出演＝松平健、一路真輝ほか●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]一般5,000円、ユース(24歳以下)2,500円※発売日初日は、お一人様一申込につき1公演4枚までの枚数制限有り。



ナイロン100℃「百年の秘密」

チケットの購入・お問合せ
プラットチケットセンター
●劇場窓口・電話0532-39-3090[休館日を除く10:00～19:00]
●オンラインhttp://toyohashi-at.jp[24時間受付・要事前登録]



劇団こふく劇場「ただいま」 撮影・宮川舞子 「不思議の国のアリス」

7/27 [金] 19:00開演・**28 [土]** 14:30開演
PLATダンスプログラム
伊藤郁女
「私は言葉を信じないので踊る」
世界の名振付家に愛される伊藤郁女。ダンサーの娘と彫刻家の父、ヨーロッパと日本という何千kmも離れた所で生きる2人の、をして一種の文化的な隔たりで離れてしまった2人の再生の物語。●会員先行＝4月28日(土)●一般発売＝5月12日(土)●テキスト・演出・振付＝伊藤郁女●出演＝伊藤郁女、伊藤博史●会場＝PLATアールスペース●料金＝[全席自由・日時指定・整理番号付]一般3,000円ほか

8/8 [水] 19:00開演
「消えていくなら朝」
劇作家・蓬萊竜太による書き下ろし。声高に問題提起するのではなく、提起すべき問題が自然と浮き彫りになってくるような、「現在」を見つめる作品をお届けします。●会員先行＝5月12日(土)●一般発売＝5月26日(土)●作＝蓬萊竜太●演出＝宮田慶子●出演＝鈴木浩介、山中崇、高野志穂、吉野実紗、梅沢昌代、高橋長英●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]S席5,500円、A席4,500円、B席3,000円ほか

8/30 [木] 19:00開演・**31 [金]** 13:00開演
二兎社公演42
「ザ・空気ver.2 誰も書いてはならぬ」 **31日のみ**
舞台は報道各社の政治部が入居する国会記者会館。ある出来事をめぐり、考え方も立ち位置も異なる記者たちが抜き差しならない状況に追い込まれる。●会員先行＝5月26日(土)●一般発売＝6月9日(土)●作・演出＝永井愛●出演＝安田成美、眞島秀和、馬淵英里何、柳下大、松尾貴史●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]S席5,500円、A席4,500円、B席3,000円ほか

9/8 [土]・9 [日] 14:30開演
PLAT小劇場シリーズ
劇団こふく劇場
「ただいま」
1990年に宮崎県都城市で結成され全国で活動するこふく劇場。豆腐職人の男、文具店に勤める女、主婦、仕事を探す音、そんな市井の人々のかけがいのない日々の物語をお届けします。●会員先行＝6月2日(土)●一般発売＝6月16日(土)●作・演出＝永山智行●出演＝あべゆう、かみもと千春、濱砂崇浩、大迫紗佑里ほか●会場＝PLATアールスペース●料金＝[全席自由・日時指定・整理番号付]一般3,000円ほか



「チルドレン」 高畑淳子 鶴見辰吾 若村麻由美

9/15 [土] 14:00開演
9/16 [日] 12:00開演／16:00開演
9/17 [月・祝] 14:00開演
「不思議の国のアリス」 **16日12:00のみ**
世界を魅了してきた名著「不思議の国のアリス」をモチーフに、NHK「からだであそぼ」などで子どもたちに人気のダンサー・振付家の森山開次実力派ダンサー&スタッフ陣で贈ることもおとなのためのダンス作品です。●会員先行＝6月16日(土)●一般発売＝6月30日(土)●原作＝ルイス・キャロル●テキスト＝三浦直之●演出・振付＝森山開次●出演＝森山開次、辻本知彦、島地保武、下司尚実、引間文佳、まりあ●会場＝PLATアールスペース●料金＝[全席自由・日時指定・整理番号付]大人3,000円、子ども(高校生以下)500円ほか

9/29 [土]・30 [日] 13:00開演
「チルドレン」 **29日のみ**
ブロードウェイ、ウエストエンドを震撼させた超話題作!大地震、津波、そして原子炉の停止…いま世界が最も注目する女流作家ルーシー・カーウッドによる悪寒とサスペンスに満ちた傑作を実力派俳優たちがお贈りします。●会員先行＝6月30日(土)●一般発売＝7月14日(土)●作＝ルーシー・カーウッド●演出＝栗山民也●翻訳＝小田島恒志●出演＝高畑淳子、鶴見辰吾、若村麻由美●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]S席7,500円、A席6,000円、B席4,000円ほか

10/6 [土]・7 [日] 14:30開演
PLAT小劇場シリーズ
KAKUTA
「ねこはしる」 **7日のみ**
子ねことさかなの友情を描いた工藤直子の「ねこはしる」を、うたとことばの朗読音楽会としてお届けします。●会員先行＝6月16日(土)●一般発売＝6月30日(土)●読本＝工藤直子「ねこはしる」(童話屋刊)●構成・演出＝桑原裕子●会場＝PLATアールスペース●料金＝[全席自由・日時指定・整理番号付]大人3,000円、子ども(高校生以下)500円ほか

若手音楽家育成事業
プラットワンコインコンサート **好評発売中**
「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたPLATオリジナルのワンコインコンサートです。500円で贅沢なひとときをお過ごしください。●会場＝PLATアールスペース●料金＝[全席自由・整理番号付]500円
4/20 [金] 14:00開演
「グロリアンで奏でるドイツ三大Bの響き」
竹田江梨子(ピアノ)

会員・一般同時発売4月20日(金)
6/21 [木] 14:00開演
「Afternoon Concert ～初夏の訪れ～」
trio Flap[トリオ・フラップ]加藤千理(フルート)、鷹松孝奈(フルート)、天野あさ子(ピアノ)
8/2 [木] 14:00開演
「リズム・ステップ・ダンス～舞曲で巡る世界～」
Le deux mai[ル・ドゥーメ]著名大地(打楽器)、鈴木結花(ピアノ)

「旅の仲間 してください」

芸術文化アドバイザー

桑原裕子



むかしからロードムービーが好きです。

A地点からB地点へと向かう、その道程を描く旅の物語。そこにある新しい出会い、次々と訪れる事件やトラブルを乗り越えて紡がれる友情、旅の間だけの淡い恋。とうして到達点に達するころ、以前よりもほんの少し成長している主人公…。

そんな話を見ると、たとえお決まりの流れだとしてもワクワクせずにはおれません。ロードムービー、紀行小説。私は劇作をしています、自分の書くものもそうした内容が多かったように思います。旅でしか見ることのできない未知の世界を想像しては胸を躍らせ、自らもその景色を見たような気持ちになるのです。

ですが私の本質はというと、そこはまるで逆の人間です。なぜなら極度の方向音痴。一人でどこかに出かけようとすると、絶対に迷子になります。子どものころからずっとそう。デパートで迷子になって親を呼び出したことは数知れず、演劇を初めてからは稽古場への道のりで迷う日々がもう20年。今はナビシステムという便利なものもありますが、そもそも最初に歩き出す方角すらわからないので、いつもスタート地点を行ったり来たりしてしまいます。取材旅行へ行っても、AからBへ到達するどころか、いつのまにかCやDにいるのははや当たり前、それならまだしも気づかずにずっとAの中をぐるぐる回り続けていることもあります。

旅に憧れる、旅下手の人間。地理が把握できないので引越しも苦手で、生まれてこの方ずっと東京都の町田市という場所に住んでいます。

私のいる劇団KAKUTAは結成して21年になります。主宰として立ちながら長く劇団を続けていると感心されますが、実際のところ、そうした資質からひとつところへ留まりつづけて来たのかもしれない。

ですが、演劇を続けていると旅をする機会は増えます。演劇人は本来、街から街へと渡り歩く回る旅ガラス。日本各地で舞台を上演し、知らない街に滞在して作品を創る、なんていう機会も頂くようになりました。

最初のころはものすごく不安でした。表向きへらへらしているので悟られることは少ないですが、内心は旅支

度すら憂鬱。休日に街を散策するなどという技も持ち合わせていないので、DVDやゲーム機などを滞在先の部屋に持ち込んで過ごしていました。コンビニとTSUTAYAの場所さえ把握しておけば何とかやり過ごせる、というのが滞在制作で学んだ最初のことです。

さて、自己紹介代わりに自らの情けない資質を書き連ねたらずいぶん長くなってしまいましたが、そんな私がこの度、平田満さんにご推薦いただき、穂の国とよはし芸術劇場PLATの芸術文化アドバイザーというお役目を務めさせていただくことになりました。

愛知県にはそもそも縁もゆかりもございません。なにせ東京都の片隅にずっと留まってきたのですから。昨年末、「荒れ野」という舞台で三週間ほど豊橋に滞在しましたが、その期間も劇場とホテルを行ったり来たり、ついで三河湾すら拝めることもできませんでした。

豊橋生まれの名俳優・平田さんに代わりそんな奴が豊橋に来たところで何ができるの?皆さんご不安に駆られるのではないかしらんと、書きながら私も焦ってきました。でもどうか。少しのあいだご辛抱いただき、様子を見守っていただけないでしょうか。

方向音痴な彷徨い人生で私にも一つだけ才能があることに気づきました。それは出会いの才能です。

これまで数多く道に迷ってきましたが、そんなときは必ず助けてくださる誰かが登場しました。そう、ロードムービーでいうところの「旅の仲間」です。迎えに来てくれる人、正しく導いてくれる人、一緒に道を探してくれる人。そうした方々によって支えられ、ひとりでは生きられないことをよくよく理解しております。その上で、出会った方々としてく関わり続け、友情を育む資質を劇団で培ってまいりました。

小学生の時はそのしつこさ、しぶとさから「ハエちゃん」とあだ名をつけられた私です(汚いからではないですよ)。これからは、豊橋を出発点にして世界を広げ、皆さんにしつこくしぶとく関わっていきながら、共に多くの旅物語を紡げたらと思っています。

私をあなたの旅の仲間にしてください。どうぞよろしくお願ひします。

SUPPORT



知識製造業
三遠機材株式会社
http://www.san-en.co.jp

有限会社 魚伊
電話 52-5256

株式会社 竹尾建築設計事務所
代表取締役 竹尾 誠
豊橋事務所/豊橋市平川南町91-2 〒440-0035 Tel.0532-62-1331(代) Fax.0532-62-1332
浜松事務所/浜松市東区流通元町13 〒435-0007 Tel.053-422-3628(代)

吉野設計研究所
http://www.440a.co.jp

グロリアンピアノ地域特約店
白羽楽器 株式会社
電話053-464-3015

竹内産婦人科
産婦人科 婦人科(不妊治療)
豊橋市新本町23 (豊橋市西産婦人科) 053-464-3015

ケンチク 701
KURONO ARCHITECT STUDIO
✉ y.qlo0170@gmail.com

うつ、統合失調症、精神遅滞、発達障害、脳梗塞、人工透析、人工関節など
豊橋・豊川障害年金相談センター
初回相談無料 ☎0120-891-498
豊橋市花中町 160-9 障害年金専門社会保険労務士 竹下英司

看板広告 アラキスタジオ
豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら
精文館書店
TEL.54-2345

医療法人慈豊会
大島整形外科クリニック 院長 大島 毅
東田町井原39の7(市赤赤岩口終点前) 電話62-5511(代)

ONOCOM 株式会社 オノコム

外科・内科・胃腸科・麻酔科・消化器科・呼吸器科
伊藤医院 伊藤之一 伊藤文二
豊橋市小池町字原下35 電話45-5283(代)

創業文政年間 数きく宗
豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。
豊橋調理製菓専門学校
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL.53-2809

豊橋銀行協会 (順不同)
三菱東京UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行
三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 第三銀行
十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

御茶席菓子専門店
若松園
御菓子司 創業江戸

気まぐれコンサート
事務局/0532-62-9259(小川恵司)

安心安全な地下駐車場
パ・ガ500 ソウの親子の看板が自印
プラット主ホール・アートスペース公演等へのお客様は30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・麻酔科
医療法人 塩之谷整形外科
理事長 塩之谷 昌 院長 塩之谷 香 副院長 市川義明
豊橋市植田町関取54 電話0532-25-2115(代)

豊橋名産 命あくわ

井上皮フ科クリニック

診療時間 月・火・木・金 10:00～13:00 16:00～19:00
土 10:00～14:00 休診日=水・日・祝
電話0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。
共和印刷株式会社
豊橋市小池町36番地の1 TEL46-3281 FAX46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科
医療法人 大岩整形外科・皮フ科
院長 大岩俊久 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆
書道用品専門店
高誠堂
豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

本の豊川堂

本店54-6688番/カルミア店55-2810番/アビタ店54-6351番

練物專家
たけなでん
コアラフロント ホテルアーグリッシュ 1F

ISO9001 ISO14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得
株式会社 三光製作所
三光精密工業株式会社
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

Storyteller tells the Story
物語コーポレーション

JEANS SHOP YAMATO
豊橋 つつじが丘 / 豊川 千歳通り

生活にファインクオリティ

sala

広告募集

TICKET CENTER

チケットの購入・お問合せ

プラットチケットセンター

電話・窓口
0532-39-3090 [休館日を除く10:00～19:00]
オンライン
http://toyohashi-at.jp [24時間受付・要事前登録]



プラットフレンズ募集
入会金・年会費無料

特典

- 公演情報をメールでご案内します。
- インターネットでチケット予約ができます。
- 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。
※劇場窓口またはホームページから登録いただけます。

U24・高校生以下割引ご案内

ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。

料金

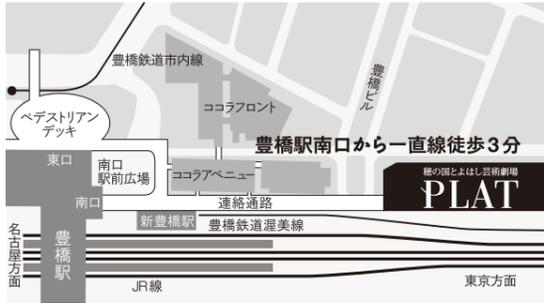
U24[24歳以下対象]:公演ごとに指定する席種の半額
高校生以下:一律1,000円

購入方法

各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。

その他

本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。
座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。



〒440-0887 愛知県豊橋市西小田原町123番地
電話=0532-39-8810[代表]

開館=9:00～22:00 休館日=第三月曜・年末・年始。

第三月曜が祝日の場合はその翌平日。

豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、

新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。

※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

お近くの公共駐車場等をご利用ください。

穂の国とよはし芸術劇場 PLAT